

教職支援室便り（11月号）

令和5年11月10日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

本年度の「教職特別講座」について



次年度、教員採用選考試験を受験する学生の皆さんを対象に、10月17日（火）・26日（木）、「教職特別講座」のオリエンテーションを行いました。現在、3年生を中心とした「教職特別講座」が始まっています。これから、約1年にわたり様々な演習を重ねていきます。

今回は、13名の受講希望がありましたが、教職への思いには、まだ個人差があるかもしれません。「本当に先生になりたいのか。」について自問自答して、これから「教職特別講座」の演習に取り組んでほしいと思います。

＜オリエンテーションの様子＞

「教職特別講座」では、教職教養、専門教養などの筆記試験対策とともに、学校教育に関する問題・課題を資料提示したり、それに関する討論を取り入れたりしながら、教職への理解を図っていきます。また、多くの自治体では、一次試験から個人（集団）面接、小論文などの試験が行われていることから、早い段階で、それらの演習も取り入れながら進めます。そして、教員としての資質・能力の向上を目指します。

学生の皆さんには、自己の目標を明確にもち、この「教職特別講座」を有意義なものにしてほしいと思いますが、特に大切な姿勢は「主体性」です。他律的な姿勢では成果は得られません。課題解決に向けて、自分から求めていく意欲（誠実さ）が不可欠です。「教職特別講座」で何を学ぶのか、どのような姿勢で臨むのかなどについて、しっかりとした考えをもって取り組んでほしいと思います。

特に昨年10月からのこの1年は、学生の皆さんの「教職特別講座」への理解に個人差があったことを踏まえ、ここで、今一度「教職特別講座」の原点について述べます。

「教職特別講座」の真の目的とは何か

「教職特別講座」は、例年、10月から約1年にわたり、一次試験に向けて「教職教養、専門教養」、二次試験に向けて「個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業、グループワーク、小論文」などの演習を行っています。

この「教職特別講座」を進めていく中で、毎年実感することは、「教職特別講座」は、採用試験に合格するためだけに行っているのではないということです。もちろん、合格することも目的であることは間違いありませんが、それ以上に大切にしたいことは、合格に関係なく、学生の皆さんが自分たちの力で、大切なものを育てる機会にしているということです。「教職特別講座」をほとんど休むことなく、熱心に取り組む学生の皆さんが多くいることは、私にとって何よりの喜びです。毎年、「この人たちのために、できる限りのことを支援したい。」という気持ちになります。（次頁に続く）

それでは、学生の皆さんが育てる、大切なものとは何なのでしょう。それは、人としての内面的な資質（誠実さ、協調性、コミュニケーション力、学び続ける姿勢など）や、教員としての専門性の基礎（児童生徒理解への意欲、授業力向上への熱意など）です。教職教養の演習から始まり、専門教養、面接、集団討論、模擬授業、小論などの演習に至るプロセスの中で、それらが培われていると強く感じます。もしかすると、「教職特別講座」に参加しなくても、採用試験に合格する人がいるかもしれません。しかし、「教職特別講座」に真摯に取り組む皆さんは、これからの教職人生において、採用試験の可否に関係なく、必ず自己の資質・能力を更に向上させ、自己実現を果たしていくと考えます。

私のこれまでの教職人生から、この考えに確信をもってきましたが、それを確固たるものに変えてくれたのは、「教職特別講座」を受講した卒業生の皆さんの言葉です。

「教職特別講座」を受講した卒業生の皆さんの言葉

小さい頃からの夢だった、教師に来年からなることができると思うと、すごく嬉しいです。特別講座を受ける前の私は、合格することが“ゴール”だと思っていました。しかし、今の私は違います。ここからが“スタート”だという気持ちです。こんなふうに変えてくれた、成長させてくれた特別講座には感謝しかありません。もちろん現場に出たら、大変なこともあると思うので、不安な気持ちも少しはありますが、それ以上に楽しみなことが沢山あります。先輩の先生方に助けてもらいながら、子どもたちと一緒に成長していけたらいいなと思います。4月に向けて少しずつ準備していきたいです。本当にありがとうございました。

これまで約1年間、先生に熱心なご指導を頂き、同じ目標をもつ仲間と共に頑張ってきたことを誇りに思います。採用試験への勉強を通して、教師として、そして一人の社会人として、大切なことを学ぶことができました。まだまだ自分には足りないところもあると、しっかり見えました。これから時間を有効に使い、学び続ける人でありたいと思います。試験を終えた今、改めて教師は魅力的な職業だと思います。子どもと共にある教師を目指して、更に努力を積み重ねていきます。

10月から始まり、気付けば一次試験が終わり、二次試験対策が始まりました。二次試験までの約1か月は、正直きついと思うこともありましたが、仲間や曾我先生のおかげで乗り越えることができました。二次試験が終わった今、「やりきった」「楽しかった」という気持ちです。

特別講座は、教員採用試験のための対策はもちろんですが、来年から教員として働く上で必要な力を身に付けることができました。試験が終わって、特別講座がないと思うと寂しいです。これからも、よい教師になるために励んでいきたいです。

他にも卒業生の皆さんの、「教職特別講座」への思いを綴ったコメントが、これまで数多く寄せられてきました。私にとって大切な宝物です。

この「教職特別講座」が、教員採用選考試験対策のためだけでなく、教員としての資質・能力の向上に資するよう、これからも学生の皆さんが、自分自身を磨いていく貴重な講座にしていきたいと切に思います。このことを踏まえ、本年度から「教職特別講座」の目的に、「誠実さに裏打ちされた姿勢を有する受講生」という文言を付け加えました。

今回「教職特別講座」に参加する、3年生の皆さんの取組には大いに期待しているところです。

次に、学生の皆さん（3年生）の「教職特別講座」への抱負を、一部紹介します。

私の目標は、教職特別講座に参加して、教員採用試験に合格するための知識を取り入れるだけでなく、教師としてあるべき姿勢を身に付けることです。私は、これまでの人生を生徒として過ごしてきましたが、再来年には、教師という立場に変わるかもしれません。その時に、生徒に恥じない先生になるための準備を講座を通して行っていきたいです。取り組みに関しては、毎回の予習、復習を真面目に行い、一回一回の講義を大切にしていきたいです。また、私は記憶することは得意ですが、突然聞かれたことに対して答えることができるというような応用力がないので、講座を通して、応用力も身に付けていきたいと考えています。よろしくお願い致します。

私は教員になるという夢を叶えるため、教職特別講座に誠実な姿勢を持って参加したい。オリエンテーションでは先輩のお話も聞くことができ、試験に向けてのモチベーションも上がったところだ。今の時点でなにも勉強もしておらず少し焦る気持ちもあるが、ここから着実に積み重ねていきたいと考えている。曾我先生のご指導と、仲間と協力して学び合う教職特別講座を通して、自分をもっと高めていけたら良いと思う。来年まで誠実に頑張っていきたい。

先日は、教職特別講座のオリエンテーションを開催して下さりありがとうございました。また、実際に教員採用試験を受験された先輩のお話を聞くことができ、とてもよい経験となりました。夏休みから少しずつ、勉強を始めてはいたものの、1人ですのには限界を感じていたため、また、教員採用試験に合格するという目標だけにとらわれることなく、社会人や教員としての資質・能力を育成するため、教職特別講座に参加させていただきます。

現在は、まだまだ知識不足で分からない点が多いものの、予習や復習を大切にしながら、また、関連する授業なども活用して学びを深めていきたいと考えています。時には厳しい道のりになるかと思いますが、同じ教職課程の仲間と切磋琢磨しながら、学び続け、全力で挑戦したいです。

今回先輩方の感想や先生のお話を聞いて、改めて教職が努力を必要とする道であることを実感しました。しかし、子どもたちに努力することを教える者が努力を怠ることは、あってはならないことだということも改めて考えました。人生の中で時間をとって必死に勉強できる期間は、教師になってからでは中々とれるものではないと思います。まずは教師になる自分を想像して、勉強することを楽しみながら、真剣に努力したいと思います。今回のオリエンテーションで生まれたやる気を大切にして、最後に後悔しないように必死に取り組もうと思います。

私は、将来教師となり子どもたちの成長に貢献したいです。そのために、この教職特別講座に真剣に取り組み、様々な演習を通して教員になるための知識や技能を習得し、教職に対する理解をより深めたいと考えています。また、子どもたちに少しでも良い授業や生徒指導を提供することができるよう、教師としての自信を築くことや自分自身の人間性を高めていくことが目標です。学ぶ内容は多いと思いますが、一生懸命に取り組みたいと思います。よろしく申し上げます。

学生の皆さんの「教職特別講座」への抱負については、12月号にも掲載したいと思います。

道徳の教科化に思う！（シリーズ78）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、「道徳科における評価を考える」をテーマに、その3として、「内面的自覚に係る評価、具体的な評価事例」について掲載します。

◇ 内面的自覚に係る評価

道徳科が、「自己（人間として）の生き方についての考えを深める」学習であることを踏まえ、道徳的価値の内面的自覚について、評価することは大変重要である。これは、「道徳性に係る成長の様子の評価」にもつながるものである。その評価の具体的な取組として、次の学習活動を計画する。

道徳的価値の内面的自覚の姿を明確にし、それを展開後段における学習活動に取り入れる。それは、授業全体で道徳的価値の内面的自覚を図る中で、展開後段において、児童生徒に道徳的価値の深まり、高まりを自覚させる学習活動である。具体的には、展開後段において、下欄の表中ア～クを、価値の内面的自覚の姿として児童生徒に示し、意識させることで、内面的自覚の深まり、高まりを自覚させる活動である。なお、この学習活動では書く活動を効果的に取り入れ、ワークシート等で、児童生徒一人一人の内面的自覚の姿を累積していくことが重要である。

<学習活動>

- ① ワークシート（内面的自覚の姿）を見て話し合う。
- ② 選択した理由を話し合う。
- ③ ②の活動を受け、ねらいとする価値に係るこれまでの生活経験（体験）を話し合う。

ア	今まで気付かなかったことに	気付いた
イ	もやもやしていたことが	はっきりした
ウ	わかっていなかったことが	わかった
エ	迷っていたことが	確かになった
オ	足りないところが	よくわかった
カ	頭でわかっていたことが	しみじみわかった
キ	わかっていたことが	よくわかった
ク	今まで思っていたことが	違うもの変わった

◇ 具体的な評価事例

① 学習状況の評価

- 学習に対しての興味・関心・意欲
 - ・教師の発問に集中する。
 - ・自分の考えを進んで伝える。
 - ・積極的に話合いに参加する。
 - ・友達の考えをうなずきながら聞く。
 - ・発言する友達の顔を見ながら聞く。 等
- ※ ②～④についての評価も可能である。

- ② 多面的・多角的な見方・考え方の評価
 - 道徳的価値に係る様々な見方・考え方
 - ・友達の考えと自分の考えを比較する。
 - ・様々な考えがあることに気付く。
 - ・友達の考えを取り入れる。
 - ・いろいろな立場で考えることができる。
 - ・ねらいとする価値と関連する価値に気付く。等
- ③ 自分との関わりの中で考えることの評価
 - 自分のこととして受け止める見方・考え方
 - ・人間としての弱さを、自分のこととして考える。
 - ・人間としての強さを、自分のこととして考える。
 - ・登場人物の気持ちを、自分の経験と重ねて考える。
 - ・登場人物の気持ちを、自分に置き換えて考える。
 - ・これからの自分の生き方につなげて考える。等
- ④ 道徳性に係る成長の様子の評価
 - 自分に望むこと
 - ・自分に足りなかった気持ちや考えに気付く。
 - ・道徳的価値のよさに気付く。
 - ・よりよい行動がとれるようになりたいと考える。
 - ・登場人物の心を大切にしていきたいと考える。
 - ・普段の生活の中でも、成長の様子が見られる。等

※ 道徳科の時間「点」→「線」

道徳科以外の時間も、道徳性の成長を見守る大切な時間である。道徳科の時間を「点」とすれば、それを「線」にする時間である。

◇ ①～④は、相互に関連するものであり、内容が重複する場合もある。

<道徳科における評価のイメージ>

